

区分	スペック・試行	担当課	道路建設課
----	---------	-----	-------

事業区分	道路	取組項目	歩道等の機能を包括した広幅路肩の設置
現状・問題点・背景			
<p>歩道や自転車歩行者道の設置については、交通事故防止の観点等から、都市部の車両交通量の多い区域が主体となる場合が多いが、高齢者の割合の多い中山間地域の徒歩、自転車等での道路利用についても安全性の向上を図る必要がある。しかしながら、山間部の急峻な地形では、歩道幅員を確保することが、切土の増大や構造物の高コスト化につながるケースもあり、費用対効果の観点からも歩道等の設置が難しい場合が考えられる。</p> <p>また、都市部においても既設の歩道が狭く段差がある場合等は、利用者が歩道を通行せず車道を通行する場合等がみられ危険である。この場合、隣接する建物の補償等に莫大な費用を要する等、容易に歩道の幅員を広げることが困難な場合が多く、早急な対策が困難である。</p>			
取組項目の内容			
<p>上記の箇所において、従来の歩道を設置する代わりに、歩道機能を一部有した路肩構造とし、通常75cmの幅員を1m～1.5m程度に広げた幅員構成とする。</p>			
取組項目の効果			
<p>交通量に占める大型車の割合が多い中山間地域の歩行者、特に高齢者等の道路利用における安全性の向上が期待できるとともに、通行車両の視距増大や一時的な待避・停車といった本来の路肩の機能を包括することができる。従来の標準幅員(望ましい幅員)から身の丈にあった構造へと道路幅員を見直す際等にも活用が考えられる。</p> <p>都市部においても、植樹帯、車道、現状の歩道等で構成される幅員から、路肩を広く取ること等の機能の再配分を検討することにより、より効果的な構造となることが考えられる。</p>			
イメージ(コンセプト)			
<p>中山間地域</p> <p>歩行者は、さほど多くはないが、高齢者の徒歩、自転車等での利用がほとんど</p> <p>正規の歩道幅員を確保するとコストが増大することが予想される</p> <p>著しいコストの増大を招かない範囲で、広い路肩を確保した設計とする</p> <p>都市部</p> <p>狭い歩道のため多くの歩行者、自転車が車道を利用</p> <p>沿道の状況から広い歩道幅員を確保することが困難</p> <p>既設の「歩道+路肩」を広幅路肩化し、路面のカラー化等で安全性に対応</p>			